

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果  
作成日

平成23年4月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791300029		
法人名	社会福祉法人 貝塚誠心園		
事業所名	グループホーム きしまの里		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護(介護予防認知症対応型共同生活介護)		
所在地	大阪府貝塚市三ツ松952-3		
自己評価作成日	平成22年12月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月27日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	(基本情報リンク先URLを記入)
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 カロア
所在地	大阪市天王寺区堀越町1-1
訪問調査日	平成23年 1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所では、デイサービス・地域密着型特別養護老人ホーム・短期入所生活介護が併設されており、緊急時のオンコール体制が取られています。また、精神科・内科・歯科の往診が受けることが出来ます。利用者個々の状態を把握して、残存機能の活用と機能の向上の為に、音楽療法士による嚥下体操や手摺を持つての立位訓練・歩行訓練・作業リハビリ、及び、毎日の昼・夕食前に上肢の体操と歌等を取り入れて嚥下がスムーズに行える様に努めています。また、近隣に小学校があり、来て頂いたり訪問したりして交流を図っています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>住宅街の中にあり近隣には小学校・保育所と地域に溶け込んでおられました。施設内は良く整理整頓され感染症に対する対策も行き届いており、利用者が過ごしやすくなっており、利用者本人やご家族の意向に沿った尊厳をもったケアをされており、職員間の話し合いや情報共有も努めて行われていました。また、近隣の小学校・保育所やボランティアの方との交流も積極的に行われておられました。また機会があれば外出にも行かれ、利用者がより良い生活をされるよう支援されていました。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の言動を受容しながら、安心、信頼、満足して頂けるように努めています。その人らしく生活出来る様に残存機能の活用を図っています。	日常の関わりの中で利用者ひとりひとりの希望や思いを受け入れるよう心がけておられました。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の社協ボランティアの定期訪問や小学校や高校生等との交流、及び、演芸訪問等の受け入れを行っています。	ボランティアの訪問も多く、近隣の学校からの訪問や運動会の見学に行くなど地域住民の一員として交流を図っていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特にしていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、毎月の行事や施設の状況などを報告し、ご意見や他施設の取り組み等を伺い参考にしながらサービス向上に努めています。	2ヶ月に一回のペースで定期的に開催されており、家族の代表者や市の担当者も出席され施設の状況報告と意見交換をされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢介護課や地域包括センタ担当の市職員の方、自治会長等に運営推進委員会に参加して頂き意見交換を行っています。	日頃から連絡や働きかけも積極的に行うよう努めておられます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言は行っていないが施設全体で身体拘束は行っていません。	身体拘束は一切せず、また行わないよう職員間でも話し合いより良い対応を心がけておられています。また、玄関の扉も常に開いており施錠もされていませんでした。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や職員の言動に注意を払い虐待防止に努めている（外部研修等で学んだ職員がレポートを出し、回覧している。）		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護や成年後見人制度の研修は受けていないが現在対象となる方は入居されていません。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項の説明を行い疑問に関しては、その都度応え、納得していただいている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会も多く、職員も相談されれば、管理者に報告、必要に応じて総合施設長と協議して運営に反映するように努めている。	ご家族の面会も多く、遠慮なく要望や意見が言える雰囲気であり、必要に応じて対応されています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	管理者もグループホーム会議に参加し職員の意見や要望を聞き、職員会議や主任・リーダー会議に提案し協議するように努めている。	会議が頻繁に行われ、職員の意見や提案にもよく耳を傾け話しやすい環境で協議されておられます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や直属の長の評価等を活用して勤務状態や業務の姿勢等を把握し、各職員がやりがいを持つ様に、賞与や職場環境の整備を行ってくれている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度から、外部研修に参加する機会もあり、毎月の内部研修に参加して、資質向上に努めています。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	特に行っていません。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とのコミュニケーションを図りながら状態把握を行っており、心身の安定と安心して日常生活が過ごせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の要望を確認しながら安心、信頼、満足して頂ける関係作りに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族に事前面接や希望を確認して対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の個々の能力に応じて残存機能の活用を図り（洗濯物干しやたたみ等） 又、利用者同士でレクリエーション等を行い馴染みの関係を築いている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会も多く通院の付き添いや、日々の変化を報告し家族に支援して頂く様に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないうよう、支援に努めている	高齢と重度の認知症により、家族以外の関係は薄くなっている。	高齢と重度化により難しくなっていますが要望や必要に応じて支援される姿勢がうかがわれました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どんな重度の方にもコミュニケーションや残存機能の活用を図り孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば何時でも相談や支援に当たる予定。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活状況や家族からの希望を確認しながら、サービスの提供に努めている。	一人ひとりに寄り添い思いを受け入れ家族の要望と共に良いケアに努めておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	個々の生活状況と馴染みの暮らし方を本人や家族に確認し把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を把握して、個別の対応を心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時に家族の希望や課題を確認しグループホーム会議等で意見交換を行い介護サービス計画に反映している。	入所時には家族からの要望等をよく聞き、日頃から連絡を密にし計画に反映されていました。また変化するたびに検討の話し合いがもたれていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や個別記録の実施やグループホーム会議等の情報を職員間で共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事的に気分転換が出来る様に外出の機会を提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	重度の認知症で地域資源の協働は困難		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に継続して受診していただいています。状態により看護師と相談しながら適切な医療が受けれるように支援している。	それぞれの希望のかかりつけ医に受診され、日頃の状態など連携を密にして医療面での体制を整えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	併設の看護師が1日に3回位は訪問してくれ、状態報告で相談に乗ってくれています。緊急時も、オンコール体制で対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院から家族や施設に相談があり、病状や入院期間について併設の看護師が相談に乗ってくれています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特に取り組んでいません。	入院した時や状態が悪くなったときのことなど、事前に家族の方に対応を説明されています。	本人・家族の要望を十分に確認し、事業所としての対応をご理解していただき不安なく過ごして頂けるよう引き続き支援されることを望みます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で定期的に看護師が研修し指導してくれている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人の指導の下、防火訓練を職員全員参加で年2回実施し放水や消火、避難訓練を行っている。本年は、自治会長も市の職員も見学に來られました。	計画及び報告もきちんと行い、自治会長や市の担当者にも参加協力を依頼されました。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の意思を尊重しながら、声かけや対応を行っている。 利用者を尊重し丁寧に声かけをされました。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自由な意思表示をされ、自己決定が出来る様になっている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムを尊重し支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	判断力のある方には自由におしゃれをして頂いている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は委託で作る機会はないがグループホーム独自でクッキングや炊飯の機会を提供して一緒に楽しめる様にしている 食事は委託業者により配膳されるので職員で相談し出来るだけ楽しんでもらえるよう取り組まれています。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量及び水分摂取量を確認して個々の状態を把握しており、栄養面での確保が出来る様に支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別の状態に応じて食後の口腔ケアを実施している。

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日中は、個別の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行いリハビリパンツから布パンツに切り替えたりして自立支援を行っている。	ひとりひとりの排泄パターンを把握してトイレの声かけを行い、布パンツで対応されるなど努力されていました。声かけもさりげなく行っており利用者の自尊心を損なわないよう配慮されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防になればと運動の機会を提供するように心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴と希望があれば入浴していただけるようにしているが希望がない。	特に現状は個別の希望も無い状態を把握しながら入浴されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の傾眠状態により、昼寝の声かけにより休息していただくため室温調整をしながら安眠が出来る様に配慮している (各部屋に加湿器設置)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個々のファイルで確認出来る様にしており、状態変化時の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の興味のある事を把握して気分転換が出来る様に支援している。役割が理解でき、出来る人には継続的に手伝って頂くようにしています。		



49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ドライブや外食、近辺の散策等で戸外に出かける機会を提供す様に努めています。	体調管理をしながら気分転換も含め可能な限り外出の機会を作っておられます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理できる人には自由に行っているが、殆どの利用者が金銭管理は困難である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人が希望すれば支援しているが、面会が多く希望は少ないし理解できていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓で明るく日当たりが良い。加湿、除湿、空調の調整等、常に快適な温度が保てるように配慮している。	窓が大きく明るく、温度・湿度に対する配慮も行き届いており、感染予防に務められており、全体的に清潔感があり居心地の良い環境でした。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの設置をして自由に過ごせるように配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の家族が持参され過ごし易いように工夫されています。	持参物にも制限が無く使い慣れたものを持って来られ過ごしやすくされていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のできる事や分る事を把握して安全に生活が送れる様に支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない